

2004年 9月16日

報 告 書

王子通商株式会社 御中

先般、ご依頼賜りました試験につきまして、別紙のとおりご報告致します。

株式会社  ヒアブル

兵庫県伊丹市西台2丁目4番8号

星和ビル 202号

TEL / FAX: 072(778)2788

忌避試験成績書

検体名	エポマーキング加工炭
試験実施日	平成16年8月27日～9月3日(1週間)
供試虫	ヤマトシロアリ職蟻および兵蟻(兵庫県伊丹市内で採集した個体)
試験方法	<p>試験は、蓋と側面に通気のための穴を開けた、底面約16×24cm、深さ約13cm、容積約7.5ℓのポリプロピレン製容器を用いました。</p> <p>検体は、開口約2mmの篩にかけた後、直径9cm、深さ7mmのスチロールシャーレに約40cc(シャーレに軽く一杯になる量)を入れ、その中央に10×10cmの濾紙(アドバンテックNo.5C)を2枚重ねて置き、供試虫の餌としました。</p> <p>上記の容器の底面に加工検体と無加工検体を並置し、それぞれに10ccの水を加えた後、容器の中央に供試虫約100個体を放ち、蓋をし暗室内で静置しました。</p> <p>観察は1週間後に行い、それぞれのシャーレに入った供試虫数を数えました。</p> <p>なお、試験期間中必要に応じ毎日2cc前後の水を加えました。</p>

結果

試験の結果は下表の通りでした。

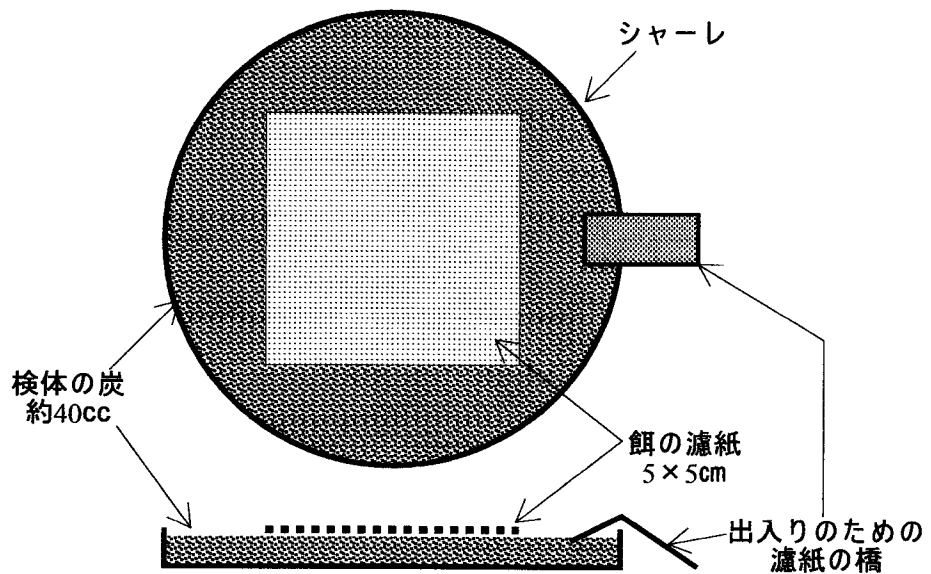
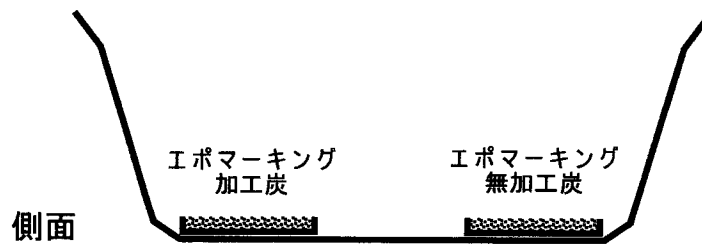
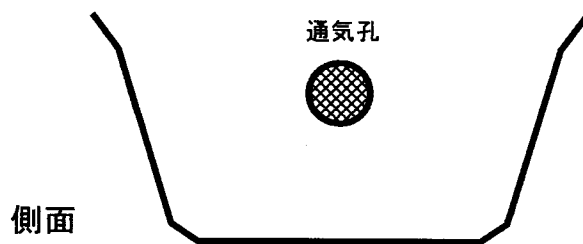
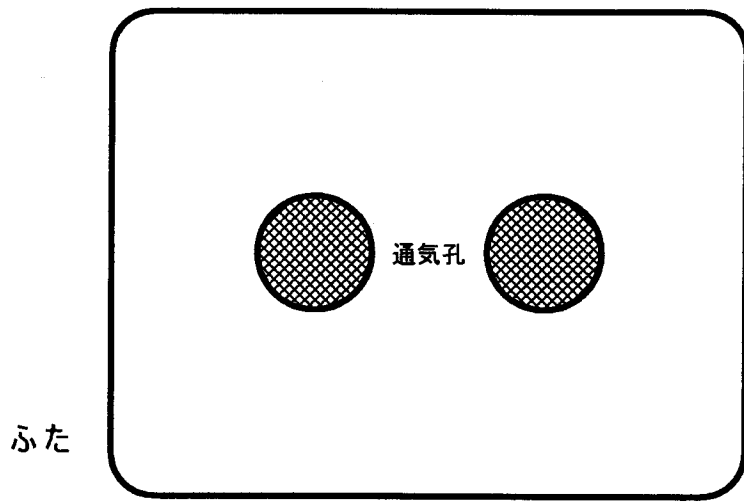
試験の結果、生存個体のみで評価しますと平均100%の忌避効果が認められ、死亡個体を含めても99.3%の高い忌避効果が認められました。

なお、大部分の供試虫は投入後1～2時間の内に無処理区に移動し、試験途中の観察時の刺激でシャーレから這い出した個体も、ごく短時間の内に無処理区に移動しました。

検体への移動個体数

	無処理区			エポマーキング処理区			忌避率
	生存	死亡	合計	生存	死亡	合計	
試験①	96	0	96	0	0	0	100.0%
試験②	92	0	92	0	1	1	97.8%
試験③	73	0	73	0	0	0	100.0%
平均忌避率							99.3%

$$\text{忌避率} = \frac{(\text{処理区と無処理区の合計の1/2}) - \text{処理シートへの移動個体数}}{(\text{処理区と無処理区の合計の1/2})}$$



忌避試験成績書

検体名	エポマーキングスプレー
試験実施日	平成16年9月1日～9月2日(24時間)
供試虫	ヤマトシロアリ職蟻および兵蟻(兵庫県伊丹市内で採集した個体)
試験方法	<p>試験は、蓋と側面に通気のための穴を開けた、底面約16×24cm、深さ約13cm、容積約7.5ℓのポリプロピレン製容器を用いました。</p> <p>検体は10×10cm、厚さ約6mmの厚濾紙に、片面に1回ずつ、裏表で2回、約30cmの距離から噴霧し、4時間室内で風乾し、その中央に10×10cmの濾紙(アドバンテックNo.5C)を2枚重ねて置き、供試虫の餌としました。</p> <p>上記の容器の底面に加工検体と無加工検体を並置し、それぞれに50ccの水を加えた後、容器の中央に供試虫約100個体を放ち、蓋をし暗室内で静置しました。</p> <p>観察は24時間後に行い、それぞれの検体上の供試虫数を数えました。</p>

結果

試験の結果は下表の通りでした。

試験の結果、検体上の供試虫数で評価しますと平均99.3%、検体の周辺の供試虫を含めた場合で平均99.4%の高い忌避効果が認められました。

なお、大部分の供試虫は投入後1～2時間の内に無処理区に移動しました。

また、本試験の条件では顕著な供試虫の死亡は認められませんでした。処理量の増加もしくは接触時間の増加に伴い、供試虫の死亡が増加する傾向が認められました。

検体への移動個体数

	無処理区			エポマーキング処理区			検体上の供試虫数 で見た忌避率
	検体上	検体周辺	合計	検体上	検体周辺	合計	
試験①	141	16	157	0	0	0	100.0%
試験②	88	52	140	0	0	0	100.0%
試験③	98	13	111	1	0	1	98.0%
平均忌避率							99.3%

$$\text{忌避率} = \frac{(\text{処理区と無処理区の合計の1/2}) - \text{処理シートへの移動個体数}}{(\text{処理区と無処理区の合計の1/2})}$$

